






「地域おこし協力隊ビジネスアワード事業」採択団体

自治体名	事業概要	※提案した協力隊員
弟子屈町 (北海道)	<p>【日本最東端ワイン造りによる地域活性化】 日本最東端のワイナリーを町内に開設し、町内産ぶどうで醸造したワインを販売する。ワインを売るだけではなく、地元農産物を使用した料理と組み合わせることで、地元でしか味わえない特別なサービス「弟子屈マリアージュ」を提供する。これにより、農産物の消費拡大と認知度の向上を図るとともに、弟子屈町の基幹産業である観光業を農業と結び付けることで再興し、地域活性化へと繋げていく。</p>	<p>高木 浩史 (37) 活動時期: H27.9～</p> 
笛吹市 (山梨県)	<p>【希少な国産マスタードで『日本一』の美食のまちへ！】 原料となるカラシナの種の栽培から、マスタードの製造・販売までを行う6次産業に取り組む。フランスでは「ワインの名産地＝マスタードの名産地」であることから、同じくワインの産地である笛吹市でマスタードを生産する。マスタードの製造過程で必要なピネガーの代用として、笛吹市で調達出来る未熟ぶどうの果汁を使用する。山梨県や笛吹市の豊かな食材をPRするとともに、新たな食文化の創出を目指す。</p>	<p>木村 早希 (25) 活動時期: H28.4～</p>  <p>八木 優彰 (30) 活動時期: H28.12～</p> 
備前市 (岡山県)	<p>【世界の土器ブランドの新規創業】 世界中の土器を扱うセレクトショップ「Earthware」を創業し、グローバル市場に向けて、新たに土器需要を開拓する。備前焼などの日本で生産された土器をはじめ、アジアの土器、欧米の土器といった世界中の土器を扱う。備前焼をはじめ、日本各地に伝統的な土器の産地があることを再認知させるとともに、土器を食器として普及させることで、最終的には伝統工芸産業全体の売上回復を目指す。</p>	<p>竹田 俊亮 (30) 活動時期: H26.10～H29.9</p> 
今治市 (愛媛県)	<p>【イノシシの『骨』を使ったジビエラーメンを開発し、獣害を資源化・特産品化する事業】 未利用部位であるイノシシの「骨」を使ってラーメンを開発し、大三島で唯一の本格的なラーメン店を開業する。愛媛県内に限らず、イノシシによる農作物被害は全国的に深刻な問題であることを踏まえ、その捕獲及び個体の有効活用の可能性を積極的に広げていく。大三島産の地域資源を材料として作るオリジナルラーメンを提供する店舗が出来ることで、ラーメンが新たなご当地グルメとなり、観光客の増加、地域の賑わいの創出、ひいては地域所得の向上へ繋げていく。</p>	<p>吉井 涼 (36) 活動時期: H27.4～</p> 

地域おこし協力隊ビジネスアワード事業

地域課題の解決や地域活性化に向けて、自治体の支援のもと、起業に取り組む隊員又は隊員OB・OGの取組を募集し、支援事業を採択

事業内容

- 地域課題の解決や地域活性化に向けて、自治体の支援のもと、起業に取り組む隊員又は隊員OB・OGの取組を募集し、専門家による審査会において、**ビジネスプランをコンペティション形式で審査し、支援事業を採択**
- 採択事業については、**専門家による現地指導を実施し、事業実現に向けた継続的なサポートを実施**

【全体イメージ】

自治体の支援のもと、起業に取り組む隊員の取組を応募

総務省が設置する審査会において、応募プランの中から、支援事業を採択

選定されたプランについて、選定に携わった専門家等から実現に向けたアドバイスを実施

